



東京2020大会へ
チーム伊豆市の軌跡
Road to 2020

ボランティア

温かい笑顔と 思いやりの心で 大会を支える

ボランティアは、大会の最前線で活躍する『大会の顔』。選手や関係者、観客をサポートする彼らは、大会を支え、成功へと導く大切な存在。研修を重ね、安心して大会を楽しんでもらえるよう、活動に励んだ。

ボランティア

東京2020大会に向けたボランティア講演会



2016年11月26日(土)
生きいきプラザ

『長野1998大会での経験から大会に向けて伊豆へ送るエール』をテーマに、ボランティア講演会を開催し、伊豆地域住民を中心に、約180人が参加した。

講演会では、長野1998大会でボランティアを経験した、21世紀ボランティア研究センターの丸田藤子代表が、「大会当日の素晴らしい光景を想像して、わくわくしながらボランティアに参加してほしい」と呼びかけた。



講師を務めた丸田藤子さん

日本大学国際関係学部・短期大学部(三島校舎)との 相互連携協定を締結



2016年12月15日(木)
日本大学国際関係学部

伊豆市と日本大学国際関係学部・短期大学部(三島校舎)は、東京2020大会を契機として、地域の国際化及びボランティア等の人材育成を促進するために相互連携協定を締結した。日本大学国際関係学部本館2階第2会議室で行なった締結式には、菊地豊伊豆市長、渡邊武一郎学部長が参加し、協定書への署名を行なった。その後は、伊豆市が行なったボランティア研修や英会話動画への協力があつた。



おもてなしす



2017年1月25日(水)～3月1日(水)
伊豆市役所、生きいきプラザ、伊豆ペロドローム

2017年6月1日(木)～2018年3月30日(金)
伊豆市観光案内所

東京2020大会へ向けて、伊豆市ではより多くの市民にボランティアに関心を持ってもらおうと、他に先駆けて募集を行ない、外国語対応(英語)と自転車競技対応の合計53人を登録した。全5回の研修にて、ボランティアとしての基礎を学んだ後、おもてなしす・サポーターとして認定した。さらに、伊豆市観光案内所にて研修を行ない、スタッフたちの実務を通じて観光案内や交通案内の知識や観光客の応対について学んだ。その後、シティキャストシズオカ(静岡県都市ボランティア)に移管した。



組織委員会によるフィールドキャストPR

2018年10月21日(日)
伊豆市民文化祭(会場:伊豆市民文化ホール)
修善寺駅ファミリーハロウィン(会場:修善寺駅)
みんなの運動会(会場:天城ドーム)

2018年10月27日(土)
伊豆市社会福祉大会(会場:生きいきプラザ)

2018年11月10日(土)
伊豆縦貫自動車道天城北道路開通記念イベント
(会場:天城会館)



リーフレットを配る組織委員会職員

2018年10月21日(日)、2018年10月27日(土)、2018年11月10日(土)の3日間、東京2020組織委員会の職員が伊豆市内の様々なイベントを訪問し、東京2020大会のフィールドキャスト(大会ボランティア)募集をPRした。
※当時はフィールドキャストという名称が決まっていなかった。



賑わう修善寺駅でPR



説明を行なう組織委員会職員

フィールドキャスト共通研修

2019年6月8日(土)・9日(日)、東京2020組織委員会主催で、フィールドキャスト(大会ボランティア)のオリエンテーションが、生きいきプラザで実施され、約440人が参加した。参加者は、フィールドキャストの説明、面談などを受けた。また同年2019年11月30日(土)・12月1日(日)、東京2020組織委員会主催によるフィールドキャストの共通研修が同会場で開催され、370人が参加。フィールドキャストとしての心構え、東京2020大会の概要、オリンピックとパラリンピックの歴史、ダイバーシティ&インクルージョン(障がい平等研修)、活動上のルールなどを、クイズやグループアクティビティなどを交えながら、楽しく学んだ。

2019年6月8日(土)・9日(日)
2019年11月30日(土)・12月1日(日)
伊豆市生きいきプラザ



シティキャスト研修

2021年7月6日(火)、7月11日(日)
修善寺駅周辺

東京2020大会前最後の研修として、7月6日(火)、11日(日)にシティキャストシズオカ(静岡県都市ボランティア)の配置別研修が実施され、約120名が参加した。『都市ボランティアハンドブック』を用いてボランティアの心構えや注意事項など説明を受けた後、観光客の実際の問い合わせ事例を挙げながら、伊豆市観光協会スタッフより実践的な観光案内のポイントを学んだ。講座終了後、修善寺駅へ移動し、トイレや休憩場所など現場確認をしながら、想定される観光客への対応をシミュレーションした。



Message 担当者の声



一般社団法人伊豆市観光協会 事務局長
ふじわら まさみ
藤原 正美

日々状況が変わっていくことに関しては心配ですが、いよいよ大会を迎えるということで、とにかくワクワクしています。一生に一度のイベント、お客様に楽しんでいただくためには私たち自身が楽しむことが大切です。シティキャストの皆さんには、リラックスして笑顔で!仲良く楽しく盛り上げてくれたらと期待します。



伊豆市観光案内所スタッフ
くさま みちこ
草間 理子

大会を無事に迎えられることができ嬉しいです。精一杯ご案内させていただきます。延期になり不安に感じることもあったかもしれませんが、シティキャストの皆さんにはサポートいたしますので、自信をもってお客様をご案内することで、人生の思い出に残る活動にさせていただきたいです。

参加者の声



シティキャストシズオカ
くろす あつみ
黒須 淳美

伊豆市は自然豊かで景色がきれいなので自転車競技の会場に選ばれて嬉しいです。コロナ禍、天候など心配もありますが、来てくださった人が伊豆市に来てよかったなと思ってくれるおもてなしをするのが私たちの役目だと思ってがんばります。



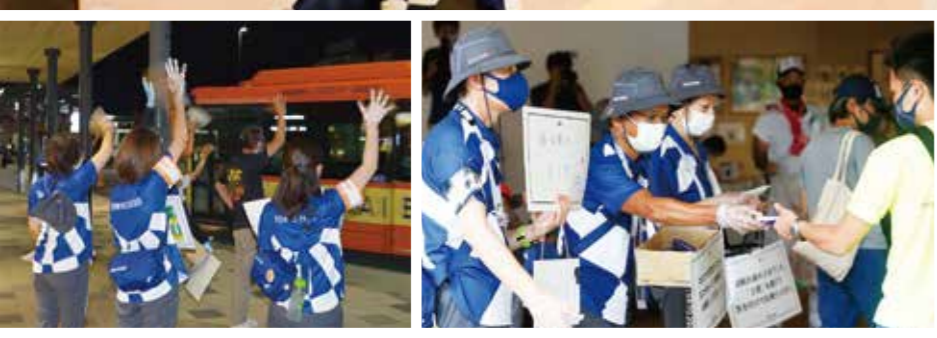
シティキャストシズオカ
みた あけみ
三田 明美

大会を迎えることができうれしいです。伊豆市に来てくださった方が楽しんで、そして喜んで帰られるようおもてなしをしたいと思います。
(この研修では、手話通訳者として聴覚障がいのあるシティキャストのサポートを務めた)

Road to 2020
Pick up!!

2020

大会当日のおもてなし



笑顔と真心で
来場者を
サポートする



フィールドキャスト
Field Cast (大会ボランティア)

運営主体
東京2020組織委員会

活動場所
競技会場、選手村など、大会関係施設
※伊豆市内では自転車競技(トラック・レース/マウンテンバイク)の各会場とサイクリング村

活動内容
観客サービスや競技運営のサポート、大会関係者が会場間を移動する際のサポート、メディアサポートなど、大会の運営に直接関わる活動を行なった。

シティキャスト
City Cast (都市ボランティア)

シティキャストシズオカ
静岡県ではCity Cast Shizuoka(静岡県都市ボランティア)

運営主体
東京都をはじめとした競技会場を有する自治体
※静岡県内では静岡県が主体となった

活動場所
修善寺駅、御殿場駅、沼津駅、三島駅、伊東駅の5駅

活動内容
訪れる旅行者に対し、観光・交通案内や、競技会場の最寄駅周辺における大会の観客への案内を行なった。

コロナ禍により、東京2020オリンピック競技大会のほぼ全競技と、パラリンピック競技大会が無観客となる中、オリンピック自転車競技(トラック・レース/マウンテンバイク)は有観客で開催された。期間中、修善寺駅構内ではシティキャストシズオカ(静岡県都市ボランティア)が案内を務めた。また観戦後のお客様へは直帰を呼びかけながら、伊豆再訪への願いを込め、温かくお見送りをした。



Message ボランティア



シティキャストシズオカ
やまぐち みなこ
山口 美奈子
『おもてなしサポーター』として、6年ほど前から大会に向けて準備をしてきました。今回お客様をお迎えすることができて、とても嬉しく思います。これまで勉強したことを発揮して、精一杯おもてなししました。



シティキャストシズオカ
こばやし たけし
小林 剛
東京マラソンをはじめ、様々な大会でボランティアを務めています。私は耳が不自由なため、手話と筆談で対応しました。伊豆といえば温泉地です。訪れたお客様がわくわくとした気持ちになれるよう、心がけました。

Message ボランティア



フィールドキャスト
シティキャストシズオカ
のぞき ゆうこ
野寺 祐子

娘が自転車競技を始めたことから審判の資格を取得し、これまで伊豆ベロドロームで行なわれた大会でもスタッフを務めました。今大会では主にフィールドキャスト(競技ボランティア)を務め、伊豆ベロドロームに加え、ロードレース会場の小山町でも活動しました。伊豆ベロドロームでは、選手たちがトラックに入るゲートの開閉などの誘導を担当しました。選手を妨げないよう動くのは大変でしたが、楽しかったですし、色々な方に競技を見てもらえて良かったと思います。今後も活動を続け、さらに自転車競技の認知を高めていきたいです。





東京2020大会へ
チーム伊豆市の軌跡
Road to 2020

伊豆市役所の取り組み

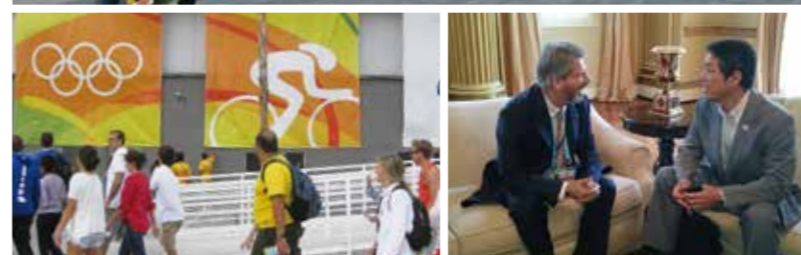
開催地としての 強い責任と 誇りを胸に

伊豆市が東京2020大会自転車競技の開催地として決定して以来、市職員たちは大会成功に向け、一体となって準備を進めてきた。市民の機運醸成や各種広報活動、職員の研修や訓練など、全力で取り組んだ。



伊豆市役所の取り組み

リオデジャネイロ2016 オリンピック・パラリンピック競技大会視察



2016年8月～9月
リオデジャネイロ2016大会視察

東京2020大会自転車競技の伊豆開催が決定したことから、2016年8月14日(日)～19日(金)、菊地豊伊豆市長は鈴木木茂樹静岡県スポーツ局長、市職員3名などとともに、リオデジャネイロ2016オリンピックを視察。トラック・レース会場および会場周辺を視察し、世界自転車競技連合(UCI)クックソン会長や、リオデジャネイロ市国際部長などと面会した。2016年9月7日(水)～12日(月)には、伊豆市職員3名が静岡県職員と共にリオデジャネイロ2016パラリンピックを視察。トラック・レース会場、リオ市オペレーションセンター、会場周辺駅などを回った。

2016年10月4日(火)
リオデジャネイロ2016大会
視察報告

伊豆市東京オリンピック・パラリンピック推進本部第4回会議の席上、リオデジャネイロ2016大会視察報告を行なった。また、10月14日(金)、20日(木)に全議員に対して、報告会を行なった。

研修

伊豆市職員研修

2015年に伊豆市での東京2020大会自転車競技開催が決定してから、伊豆市では職員を対象とした様々な研修を実施してきた。自身が研鑽を積むもの、市民へ向けて働きかけるもの、開催地である伊豆市を広く周知するものなど、その内容は多岐にわたった。大会を成功へ導くため、職員たちは気持ちをひとつにして、あらゆる準備に務めてきた。



2016年5月25日(水)職員研修



2016年10月14日(金)職員研修



2018年7月17日(火)職員研修



2018年7月18日(水)職員研修



2016年～2021年

職員研修

- 2016年5月25日(水)
(長野1998オリンピックから学ぶ)
- 2016年10月14日(金)・20日(木)
(リオデジャネイロ2016視察報告)
- 2017年8月25日(金)
(新規採用職員研修)
- 2018年7月17日(火)・18日(水)
(ブリヂストンサイクル(株)講演)
- 2018年8月14日(火)
(新規採用職員研修)
- 2019年4月1日(月)
(新規採用職員向け東京五輪音頭練習)
- 2019年7月16日(火)
(新規採用職員研修)
- 2019年10月30日(水)～11月1日(金)
(ダイバーシティ研修)
- 2020年4月1日(水)
(新規採用職員向け東京五輪音頭研修)
- 2021年2月17日(水)
(新規採用職員研修)
- 2021年6月8日(火)
(新規採用職員研修)
- 2021年7月8日(木)
(やさしい日本語研修)

新規採用職員研修

伊豆市が東京2020大会自転車競技の開催地に決定したことを受け、伊豆市職員として市民と一緒に大会を盛り上げていけるよう、新規採用職員を対象とした研修を行なった。オリンピック・パラリンピックや自転車競技について理解を深めるほか、2019年度からは初登庁となる4月1日に東京オリンピック・パラリンピック推進課職員が解説し、映像を見ながら行なう『東京五輪音頭-2020-』の練習会を取り入れた。



2019年4月1日(月)



2021年6月8日(火)

東京五輪音頭-2020-の練習

2018年7月24日(火)～2020年2月28日(金)
伊豆市役所

伊豆市では東京2020大会自転車競技の開催地として、各部署や地域のイベントなどで『東京五輪音頭-2020-』を積極的に行なえる体制を作るため、市職員たちが踊りの練習に力を入れて取り組んだ。大会開幕2年前となった2018年7月24日(火)から、全国的な新型コロナウイルス感染症感染拡大の前(2020年2月末)まで、毎朝始業前に練習を行ない、『東京五輪音頭-2020-』を通じた機運の醸成に努めた。また伊豆市職員が講師を務める市民向けの練習会を実施して市民の参加意欲を高めた。



ダイバーシティセミナー

東京2020大会開催300日前を記念して、職員向けの『ダイバーシティセミナー』を開催。目的は、東京2020大会のコンセプトの1つ『多様性と調和』を市職員が理解し、各部署での業務や市民への対応に反映させて、共生社会を育むきっかけとするためである。ソウル1988パラリンピック陸上競技『スラローム』の金メダリストである永尾由美さんが講師を務め、実際の体験談をふまえて『配慮』と『遠慮』の違いを学んだ。

2019年10月30日(水)～11月1日(金)
伊豆市役所本庁別館

日本競輪選手養成所見学

2020年11月10日(火)
日本競輪選手養成所

東京2020大会自転車競技の開催地としてのブランドを生かし、自転車まちづくりを進めていくため、市議員が日本競輪選手養成所を見学した。同養成所は長年伊豆市内に施設を構え、数々の名選手を輩出してきた歴史がある。通常は非公開のため、職員たちは初めて立ち入る養成所に興味津々。養成所職員の説明に熱心に耳を傾けては質問をし、養成所との連携強化を図り、大会後のレガシーにつなげるという思いを強めた。

庁内掲示

2016年4月～2021年9月
伊豆市役所庁舎内

2016年4月から2021年9月まで、伊豆市役所庁舎内に、大会情報、自転車競技解説、自転車競技会場(伊豆ペドローム、伊豆マウンテンバイクコース)についての情報の掲示を行ない、東京2020大会自転車競技伊豆開催を市民に周知し、大会に向けた機運の醸成を図った。



自転車のまち・伊豆市キャッチフレーズ

『自転車と伊豆 今、走り出す』

2016年6月18日(土)



2016年4月16日(土)～6月4日(土)、東京2020大会に向けた機運醸成と、大会終了後も自転車文化を根付かせることを目的に、『自転車のまち・伊豆市』のキャッチフレーズを募集。静岡県内はもとより北海道から沖縄県まで全国から応募があり、総数1,511点(一般の部1,253点、高校生の部154点、中学生の部5点、小学生の部99点)が集まった。

2016年6月18日(土)、自転車のまち・伊豆市キャッチフレーズ審査会を実施し、厳正な審査の結果、自転車のまち・伊豆市のキャッチフレーズが決定した。

最優秀賞には、千葉県白子町の梶政幸しらかまち かじまさゆきさんの作品『自転車と伊豆 今、走り出す』が選ばれた。

リオ2016大会 自転車競技トラックチーム壮行セレモニー

2016年7月9日(土)
伊豆ペロドローム

2016年7月9日(土)、伊豆ペロドロームで、リオデジャネイロ2016大会での活躍を祈念し、自転車競技(トラック・レース)代表の壮行セレモニーを実施した。

当壮行会には、4名の日本代表選手(中川誠一郎選手・渡邊一成選手・窪木一茂選手・塚越さくら選手)が参加。選手には、伊豆市本多伸治副市長から激励の言葉が、地元の小中学生5名から花束が贈られた。



リオ2016大会自転車競技代表選手へ 『メッセージ入り日の丸』を贈呈

2016年7月20日(水)
伊豆ペロドローム



リオデジャネイロ2016オリンピック競技大会での健闘を祈って、自転車競技(トラック・レース)の日本代表選手へと『メッセージ入り日の丸』を贈呈した。これは、2016年7月8日(金)~10日(日)に開催された自転車競技(トラック・レース)大会の来場者や日本自転車競技連盟の橋本聖子会長、川勝平太静岡県知事、菊地豊伊豆市長らがメッセージを記したもので、西井伸美教育長から日本代表選手5名へ手渡した。



リオデジャネイロ2016オリンピック競技大会での健闘を祈って、自転車競技(トラック・レース)の日本代表選手へと『メッセージ入り日の丸』を贈呈した。これは、2016年7月8日(金)~10日(日)に開催された自転車競技(トラック・レース)大会の来場者や日本自転車競技連盟の橋本聖子会長、川勝平太静岡県知事、菊地豊伊豆市長らがメッセージを記したもので、西井伸美教育長から日本代表選手5名へ手渡した。

リオ2016大会 自転車競技壮行セレモニー

2016年7月31日(日)
伊豆ペロドローム

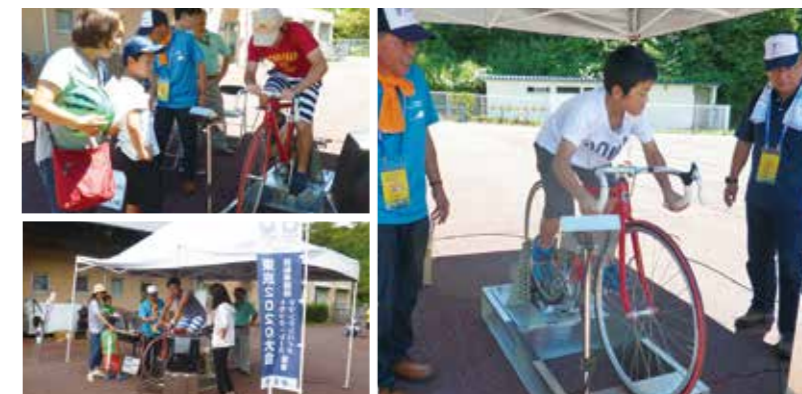
リオデジャネイロ2016パラリンピック競技大会に出場する自転車競技(トラック・レース)代表選手の活躍を祈念し、壮行セレモニーを開催した。7月20日(水)にオリンピック競技大会代表選手へ贈ったものと同様の『メッセージ入り日の丸』を贈呈し、同日行なわれていた『CSCトラック』の参加者をはじめ、約100名が直接エールを送った。川本翔大選手は激励を受けて「できるだけ上位を目指して頑張る」と話し、藤田征樹選手からは静岡県と伊豆市に日本代表選手5名のサイン入り色紙が贈られた。



『県民の日』自転車競技体験イベント

2016年8月21日(日)
日本サイクルスポーツセンター

2016年8月21日(日)、日本サイクルスポーツセンターにて『2016県民の日イベント 競技用自転車に乗ってみよう!』を開催。代表選手の記録に挑戦する200mスピードアタック、競技用自転車試乗体験などのイベントを行ない、東京2020大会に向けて、自転車競技への興味喚起の場となった。



リオ2016パラリンピック大会報告会

2016年11月3日(木・祝)
伊豆ペロドローム



リオデジャネイロ2016パラリンピック大会で銀メダルを獲得した藤田征樹選手と田中まい選手、さらに川本翔大選手、石井雅史選手による報告会を行なった。選手たちはそれぞれ、現地での健闘について語った。本多伸治副市長から選手たちへ、記念品として伊豆市産のシカ革に、静岡県立伊豆総合高等学校の生徒が「感動をありがとう」などの文字をレーザー刻印した『イズシカ金メダル』と、地域おこし協力隊がシカ革で製作した『メガネケース』を贈った。

『デイ・カウンター』 デジタルサイネージの設置

2017年3月9日(木)
市役所本庁舎1階

2017年3月9日(木)、伊豆市役所本庁舎1階市民課窓口前に、修善寺駅構内の『デイ・カウンター』ボードと連動した『デイ・カウンター』デジタルサイネージを設置。デジタルサイネージでは、『デイ・カウンター』リレーの写真、伊豆ペロドロームの映像などを放映し、東京2020大会のPRを行なった。



天城ドームなどが JOC認定競技別強化センターに認定

2018年7月25日(水)
天城ドーム



『JOC認定競技別強化センター』看板

伊豆市の『天城ふるさと広場』及び『天城ドーム』が、オリンピック強化指定選手などのトップアスリートを支援する『JOC認定競技別強化センター』に認定されたことを記念し、認定看板の除幕式を開催した。

除幕式には、女子ソフトボール日本代表チーム17名、修善寺中学校・中伊豆中学校女子ソフトボール部員などが参加。式では、日本代表チーム主将の山田恵里選手が東京2020大会で金メダル獲得をめざすことを決意表明した。



聖火リレートーチ展示

2021年3月19日(金)
修善寺駅



2021年2月1日(月)～3月24日(水)の間、静岡県内全35市町では東京2020オリンピック・パラリンピック聖火リレートーチの巡回展示が行なわれ、伊豆市では2021年3月19日(金)に修善寺駅にて展示された。展示場所には約500人が訪れ、トーチを眺めたり、一緒に写真を撮ったりして楽しんだ。トーチは日本人になじみの深い桜をモチーフとし、日本の伝統と高い技術の融合により生まれた継ぎ目のないデザインとなっている。



オーストラリア大使館来訪

2021年4月13日(火)

東京2020大会まであと約100日となった2021年4月13日(火)、オーストラリア大使館のリンズィー・パワー二等書記官をはじめ3人が伊豆市を訪れ、大会開催へ向けた情報交換を行なった。大使館職員たちは、大会期間中に在日オーストラリア人やオーストラリアからの訪日者へ対応するための準備や、コロナ禍により来日できなくなったオーストラリアサイクリングチームに代わって、視察や会議対応を行っていた。パワー二等書記官は東京2020大会期間中にも伊豆ペドロームへ足を運び、菊地豊伊豆市長と交流した。



事案対処訓練



2021年5月25日(火)
修善寺駅周辺

修善寺駅周辺にて、東京2020大会開催時の観客輸送中に、不審物や不審人物へ対応する事案を想定した合同訓練が行なわれ、大仁警察署、駿東伊豆消防本部、伊豆箱根鉄道、東海自動車と伊豆市が参加した。伊豆市職員は西口広場などで観客の誘導と、各おもてなしエリアでの安全確保について訓練を実施。また観客のエキストラも務めた。

香港公営放送局取材



2021年6月10日(木)
伊豆市内

香港公共放送局(Radio Television Hong Kong)が東京2020大会の特別番組『Road to Tokyo Olympics』の取材のために伊豆市を訪れた。番組内容は自転車競技(トラック・レース/マウンテンバイク)開催地である伊豆市を紹介するもので、現地時間の2021年7月17日(土)20時から放送され、修善寺駅の大会装飾や『デイ・カウンター』ボード、電動アシスト付き自転車のレンタルなどが紹介された。



聖火リレー説明会

2021年6月25日(金)の伊豆市での東京2020オリンピック聖火リレーを前に、当日従事する18人の職員への説明会を行なった。市内全小中義務教育学校の児童・生徒約1,600人が沿道などでの観覧を、安全に実施できるように伝える担当職員からの説明に熱心に耳を傾けていた。



2021年6月17日(木)
伊豆市役所

本部従事職員説明会

大会開催に先立ち、伊豆市では2021年7月1日(木)、東京2020大会伊豆市運営本部を発足した。また、本部に従事する153人の職員を対象に2日間の説明会を実施し、約120人が参加した。菊地豊伊豆市長の挨拶に始まり、担当職員からは大会概要と当日の活動内容について説明が行なわれた。



2021年7月1日(木)・2日(金)
修善寺総合会館

やさしい日本語教室



伊豆市に定住する外国人や障がい者をはじめ、子どもから高齢者まで幅広い層への市民サービス向上を図るため、東京2020大会開催をきっかけに初めて、伊豆市職員を対象に『やさしい日本語研修』を実施した。講師 岩田一成さんによるオンライン研修で、『やさしい日本語』を用いて、相手に合わせてわかりやすく伝える方法を学んだ。また、落ち着いて対応することの大切さ、笑顔を見せる、相槌をうって同調するなど、日々の業務にも生かせる相手がリラックスするコミュニケーションのポイントも学んだ。

2021年7月8日(木)
伊豆市役所本庁別館2階



Message 研修者の声



伊豆市 観光商工課
つちや まりえ
土屋 万理恵

研修を受けて、自分では理解できていたことも、それを全く知らない人へ言葉にして伝えることの大変さを感じました。文章を書く時に、ついずらずらと長くなりがちなので、読み込みやすい文章を書くよう心掛けていきます。



伊豆市 地域づくり課
あいはら かずま
相原 和真

研修前後で、『やさしい日本語』に対するイメージが変わりました。『相手に簡単に伝える』ことがメインで、想像以上に仕事に関わる内容でした。各種申請、補助金案内など、上手に伝えられる方法に変えていくなど、市民に寄り添ってまいります。

輸送センター机上訓練

2021年7月8日(木)・20日(火)
三島市役所中央町別館3階



東京2020大会における輸送サービスを担う静岡県輸送センターの運営について、関係者を集めた机上訓練が2021年7月8日(木)・20日(火)、三島市役所中央町別館にて行なわれ、伊豆市職員も参加した。大会関係者や観客の輸送ルートや迂回ルートの確認、情報連絡の方法や調整を行ない、イレギュラー時の対応について訓練シナリオをもとにシミュレーションし、大会当日への備えとした。

伊豆市資料館

東京2020開催記念展示『自転車の都 伊豆』展

2021年6月25日(金)～9月29日(水)
伊豆市資料館



伊豆市が東京2020大会自転車競技の開催地であることを記念し、伊豆市資料館では『自転車の都 伊豆』展を開催した。『自転車競技がどういったスポーツなのか』をテーマに、伊豆ペロドロームのバンク最大傾斜角度45度を板目状の布で再現したほか、二輪自転車の起源とされる『ドライジーネ』など貴重な資料の展示や、映像による自転車競技のルール紹介など、様々な企画で自転車の歴史や競技を伝えた。2021年7月17日(土)にはふるさと学級に参加する児童たちが見学に訪れ、学芸員による解説を交えながら自転車について学んだ。



Message 学芸員の声



伊豆市資料館学芸員
やた かのり
矢田 香緒里

今回の特別展は日本サイクリングスポーツセンターが所蔵するドライジーネ、ミショー型自転車といった貴重な資料を間近で見られる、良い機会です。多くの皆さんにご覧いただき、自転車の歴史の変遷や競技を知っていただきたいです。

児童の声



自転車は体力もつけられるし、乗っていて楽しいので大好きです。いつも自分が乗っている自転車と昔の自転車が、全然違うのだと初めて知りました。こんなに進化した自転車という乗り物も、進化させた人もすごいと感じました。



自転車の歴史を教えてもらって、色々な形をしたものがあるのにびっくりしました。ペダルも無かったり、木でできていて固かったり、すごく大きな自転車にも乗っていたなんて、信じられません。昔の人はすごいです！

土屋美奈子選手 市長表敬訪問

2021年7月12日(月)
伊豆市役所



伊豆市出身の土屋美奈子選手が、東京2020パラリンピック競技大会柔道女子72kg超級の日本代表に決定した。2021年7月12日(月)には菊地豊伊豆市長を表敬訪問し、出場へ向けて抱負を語った。土屋選手は市民へ向けて、「体の小さな私が大きな選手たちに食らいつき、戦う姿を見てほしい」と語った。

そして迎えた8月29日(日)の大会本番、初戦でブラジル選手と対戦するも敗退。敗者復活戦でも本来の力を発揮できず、ウクライナ選手に敗れた。



プロフィール
つちや みなこ
土屋 美奈子

1990年、伊豆市生まれ。株式会社ギャラリー・ド・ポップ所属、浜松視覚特別支援学校出身。高校1年生の体育の授業で柔道に出会い、競技の道へ。北京2008パラリンピック競技大会では52kg級で5位入賞を果たす。今大会は70kg超級で、3大会ぶり2度目の出場となった。



TOKYO 2020 Make The Beat!

動画配信
2020年2月25日(火)～

『TOKYO 2020 Make The Beat!』とは、東京2020組織委員会による企画で、指定の音楽『2020ビート』のリズムに合わせて動作をした映像をSNSで投稿すると、東京2020大会時に競技会場の巨大スクリーンに動画が映し出されるというもの。伊豆市では全国の自治体に先駆けて、市公式SNSとYouTubeで6本の動画を公開。大会を盛り上げるとともに、開催地である伊豆市の認知度向上へとつなげた。



恋人岬編



竹林の小径編



伊豆ペロドローム編



修善寺駅編



筏場のわさび田編



浄蓮の滝編

修善寺駅周辺



東京2020大会へ
チーム伊豆市の軌跡
Road to 2020

修善寺駅周辺

伊豆市の 玄関口でおもてなし

東京2020オリンピック自転車競技が開催された2021年7月26日(月)・27日(火)と8月2日(月)～8月8日(日)の計9日間、修善寺駅周辺では案内を務めるシティキャストシズオカ(静岡県都市ボランティア)をはじめとした、大勢のスタッフが様々なおもてなしを用意し、観客を出迎えた。



伊豆市では駅周辺に現地本部を設け、職員たちがお客様に安心・安全に大会を楽しんでいただくため、感染症対策や暑さ対策を行なったほか、来訪者対応、ごみ・騒音対策などを実施した。駅を訪れた観客たちは、シャトルバスを待つ間、駅構内の特設カウンターにて会場内の情報を確認したり、駅北口に設置されたモニメントを前に記念撮影を行ったりと、楽しそうに過ごす様子が見受けられた。



Message 担当者の声



現地本部スタッフ
(伊豆市東京オリンピックパラリンピック推進課)
うめはら ゆうじ
梅原 雄児
配布物をお渡しする際は手指消毒と手袋の着用を徹底し、密にならないように誘導をするなど、感染症と熱中症の対策には細心の注意を払いました。お客様には気持ちよく大会を楽しんでいただきたいという思いで取り組みました。



西口広場配布等実施スタッフ
(伊豆市農林水産課)
せきの ともゆき
関野 倫之
観戦客の皆様へ熱中症対策の塩飴とうちわ、記念のバッジ、伊豆の観光パンフレットなどをお配りしました。心を込めてお出迎えとお見送りをして、一人でも多くの方にまた伊豆市へと戻ってきていただきたいと思っています。



巡回清掃スタッフ
(伊豆市税務課)
こうの りょうじ
紅野 竜司
修善寺駅はお客様をお迎える、大切な玄関口です。お客様が気持ちよく会場へと向かえるよう、周辺の美化と整備に努めました。私たちが直接お客様と接する機会は少ないですが、スタッフの一員として全力で取り組んでいます。



シャトルバスドライバー
(東海バス)
なかだ やすたか
中田 育位
このような貴重な業務に携われることは、プロとして嬉しい限りです。日常の業務で培ってきた安全輸送に関わる知識や技術、また事前の研修で学んだことを生かして、お客様を無事に会場までお送り・お出迎えしました。



感染症対策として、来場者へ手指消毒を促す場内アナウンスを実施。暑さ対策としてはうちわや飲料、保冷剤などを配布した。ごみ・騒音対策では駅構内を定期的に巡回し、ごみを回収した。また、お客様が快適に観戦できるように、手荷物預かり所と授乳室を設けた。



モニュメント

修善寺駅構内

クールミスト

西口広場

北口

西口

南口

改札

修善寺駅

シャトルバス乗り場

シャトルバス降り場

シャトルバス乗り場

受付

外貨両替機

インフォメーション (シティキャスト)

記念刻印メダリオン (伊豆箱根鉄道)

給水

伊豆市本部 (伊豆市役所本庁別館)

Message 担当者の声



手荷物預かりスタッフ(ヤマト運輸)
あきやま あきら
秋山 映
手荷物預かり所では大きな荷物や、会場内に持ち込みが禁止されている傘などの手回り品などをお預かりしました。お客様が快適かつ安心して観戦できるように、大切なお荷物を責任持ってお預かりしました。



授乳室管理スタッフ
しおじ みさき
塩地 美咲
小さなお子さんをお連れの方のために、手荷物預かり所内に授乳室を設けました。女性スタッフが常駐し、ルーム内の清掃と消毒を行なうほか、おむつ交換時のゴミ回収も承りました。休憩にも気軽にご利用いただけました。



伊豆市東京オリンピック・パラリンピック推進課
すずき まさき
鈴木 政紀
さまざまなイベントにおいてだけの人々が参加していただけるのが不安でしたが、多くの市民の積極的な参加に元気をいただきました。ありがとうございます。少収も承りました。休憩にも気軽にご利用いただけました。



伊豆市東京オリンピック・パラリンピック推進課
やまぐち あゆみ
山口 亜裕美
これまでのオリンピック・パラリンピックと違い、多くの制限がある中での開催ということで、不安や苦勞も多くありましたが、市民の皆さんから『応援しています。頑張ってください』と声を掛けていただき、やり切ることができました。携わって下さった皆さんのおかげです。

伊豆市民の声



中清食堂
くわな かつみ
桑名 賀津美
期待していたほど数は多くありませんでしたが、福岡など遠方からのお客様と交流でき、修善寺を知っていただくことができました。また戻ってきていただけたら嬉しいです。今回来られなかった方にも、ぜひいらして欲しいです。

取材メディアの声



テレビ静岡
しおつき しょうへい
塩月 尚平
オリンピック期間中、修善寺駅周辺で連日取材をしました。スタッフは所属により役割が分担されているため連携が難しい部分も見られましたが、丁寧な対応でした。駅は混雑もなく静かで、観客の移動なども円滑だと感じました。

担当者の声



伊豆市東京オリンピック・パラリンピック推進課
やまだ かずひこ
山田 和彦
自転車競技の観戦を楽しみに伊豆市へ訪れる皆さんを、安心・安全にお迎えし、お帰りのために役割が分担されているため連携が難しい部分も見られましたが、丁寧な対応でした。駅は混雑もなく静かで、観客の移動なども円滑だと感じました。